

道徳科学習指導案

主題名「誰に対しても差別や偏見なく接する」〔学指要領：C 公正、公平、社会正義〕

令和5年11月17日(金) 第5校時 さくら3教室
さくら3 (特別支援学級〔自閉・情緒〕4・5・6年) 指導者 T1:小野 圭三
T2:鈴木 真由

I 主題設定の理由

1 価値観

公正・公平とは、好き嫌いや一面的な価値でものごとを判断せず、適正な判断による言動をとることである。人は一面的な価値にとらわれた言動をとってしまうことがある。特に誰かのためという理由があると、思い込みや決めつけ、先入観で間違った判断をして公平さを欠く言動をとってしまうこともある。

児童一人ひとりが自己実現を図るためには、こういった人間の弱さを乗り越えて、誰に対しても分け隔てなく接することが重要である。そのためには、自身が偏った見方をしている可能性を常に認識して、真実を見極めようとする態度が必要である。とくに障害のある人に関する偏見は、群馬県人権重要課題11項目にも挙げられており、学校を含めた社会全体で解決に向けて取り組まなければならない人権課題である。

2 児童観

本学級は高学年児童が在籍する自閉症情緒障害特別支援学級である。

道徳性については、「これはよいこと」「これはいけないこと」等、善悪の判断はできるものの、判断した後、どのように対処することが望ましいのか選択肢を考えることは難しい。集団や人との関わりにおいては、自分の利益を優先して考えてしまい、相手の立場を尊重することができずにトラブルになることも多い。多面的・多角的にものごとをとらえられるよう指導する必要性を感じている。

進んで正しいと思う言動をとることの動機は、自分自身の内発的動機による場合や「認めてほしい」「ほめてほしい」という外発的動機による場合など、児童により異なる。児童の道徳性を育てるためには、これからの自身のよりよい生き方について、意識できるようにしたい。

3 教材観 教材名「電車の中のできごと」

(出典：第28回全国中学生人権作文コンテスト入賞作品「人との接し方」)

混雑した電車に主人公(私)が乗った時に、チャラチャラした女の人が優先席に座っていた。その後、杖をついたおばあさんが乗ってきたが、その女の人は優先席に座り続けていた。すると、周囲の人のヒソヒソ話が始まり、ついに優先席の近くにいたおばあさんが、席を譲るように女の人に強く言った。しかし、女の人はもうすぐ下車する旨を伝えて座り続けていた。駅に着き、女の人が下車しようと席を立った時、その女の人の足に障害があることが分かり、主人公や周囲の人たちが驚く、という内容である。

本教材は、一面的になりがちな状況の理解から、もっと多面的・多角的な状況理解の必要性に児童自らが気付くことのできる教材である。主人公が、「元気な人は優先席に座り続けるべきではなく、おばあさんに席を譲らなくてはいけない」という常識的な価値観で女の人を見ている心情を共感的に捉えることで、誰もが思い込みや決めつけ、先入観で間違った判断をしてしまうことがあるという自覚を促すことができる。そして、女の人に障害があることが分かり、主人公や周囲の人たちが驚く場面を通して、自分が偏った見方や考え方にとらわれて、正しい判断ができていなかったことを省みて、誰にも分け隔てなく接することの大切さを実感できる教材となっている。

4 校内研修との関わり

本年度の本校の校内研修の主題は、「自他を大切にし、よりよく生きようとする児童の育成」であり、副主題は「多面的・多角的に考えるための発問や交流活動の工夫を通して」である。

本校の児童の実態として、自分に自信がもてず発表できない、善悪の知識はあっても、実際の場面で正しい判断ができない、相手の意見を取り入れ、自分の考えを深めることができないなどが挙げられる。そこで、本校ではこの実態を踏まえて、道徳の授業において、「ねらいを踏まえて主人公や教材に対する立ち位置を変えた発問をすることにより、児童の多角的・多面的な思考を促す」「児童一人ひとりが自信をもって話し合い、考えを深めていけるような交流活動の工夫」を指導のあり方の軸として、本年度の研修に取り組むこととした。

本授業では、まず導入の場面で事前アンケートの結果を発表することにより、教材文の内容に対する理解を助けるとともに、優先席に対する自分たちの考え方を再認識して、児童が実生活と

の関わりを意識して自分事として捉えられるようにする。教材文を捉える場面では、再現構成法を用いたり登場人物のイメージ画を提示することで、視覚を中心に働きかけ注意集中の持続が困難な児童が飽きずに話の展開を追えるようにする。

発問工夫について、基本発問では、私（主人公）や同じ車両に乗り合わせた人たちの心情や考えを問う「分析的な発問」を行い、思い込みや決めつけ、先入観で間違った判断をしてしまったことを省みる心の内を考えることを通して、人間理解を深め、登場人物の言動を多面的に捉えることができるようにする。中心発問では、実際に言動に移してしまっておばさんに視点を絞り、「批判的発問」を行い、自分事として自覚を高めながら価値理解を深め、誰に対しても、偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接する大切さを多角的に捉えられるようにする。また、補助発問では、人間の弱さや相手の気持ちを想像させたり、自分ならどのように対応するのかを考えさせたりする「揺さぶり」や「問い返し」を行い、児童の視野を広げたり実生活と結び付けたりして思考を活性化させ、より深く考えさせるようにする。

交流活動の工夫について、少人数であることと、児童同士だけで話し合いを進めることは難しいことを踏まえ、教師がそれぞれの児童の考えを大切にしていってつないでいくようにする。これにより、話し合いでの視点を意識させたり、それぞれの立場を明確にしたりして、話し合いを活性化させて考えを深めていくようにする。

以上の手立てにより、誰に対しても、偏見をもつことなく接する大切さに気づき、公正・公平な態度で接しようとする道徳的実践意欲と態度を育てるようにする。

II 本時の学習

1 ねらい

思い込みや決めつけ、先入観によって行った言動が招いてしまった思わぬ出来事について考える活動を通して、偏見をもつことなく接することの大切さに気づき、誰に対しても、公正・公平な態度で接しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

2 展開

【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 主な発問（○基本発問 ◎中心発問 ◇補助発問） 予想される児童の反応「S」	○指導上の留意点
<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。（5分）</p> <p>S：優先席は、お年寄りや障害のある人が座れるようになっているから気を付けよう。</p> <p><めあて> 思い込みや決めつけで行動しないためにはどうすればよいか考えよう。</p>	<p>○教材の内容理解に関わる事前アンケートの結果を確認することにより、教材文の内容理解を補助するとともに、実生活とのつながりや自分たちの考え方を認識し、自分事として問題意識を高められるようにする。</p> <p>【★提示・共有】</p>
<p>2 教材文の範読を聞き、道徳的価値についての考えをもち、交流する。（30分）</p> <p>○「わたしは、どうして恥ずかしい気持ちだったのですか。」 【分析的】</p> <p>S：知らない人だから、人がたくさんいるから。 S：勇気を出して話しかけることができない自分が恥ずかしいから。</p> <p>○「周りの人は、どうして聞こえるようにヒソヒソ話をしていたのですか。」 【分析的】</p> <p>S：知らない人に言うのは勇気が必要だから。 S：おばあさんに席を譲るべきだということを女の人に気付かせたようとしたから。</p> <p>○「ヒソヒソ話を聞いた女の人はどうしたと思いますか。」</p> <p>S：席を譲る。 S：そのまま座っている。 S：耳が悪くて、ヒソヒソ話が聞こえない。</p> <p>○「おばさんは、どうして女の人に席を譲るように言ったのですか。」 【分析的】</p> <p>S：席を譲らない女の人に腹を立てたから。</p>	<p>○再現構成法を用いたり、難しい用語や登場人物のイメージ画を提示したりすることで、内容理解を助け、集中して話の展開を追えるようにする。</p> <p>【★提示】</p> <p>○場面を細分化しながら、私（主人公）や同じ車両に乗り合わせた人たちの心情を問う「分析的な発問」を行う。それにより、思い込みや決めつけ、先入観で間違った判断をしてしまったことを省みる心の内について、順を追って段階的に考えるようにする。これを通して、登場人物の関係性を捉えながら、人間理解を深め、登場人物の言動を多面的に捉えることができるようにする。</p> <p>○T2は、T1の発問を受けて発言が少ない児童をとらえ、声掛けにより個別支援を行い、意見をもたせて発言につなげていく。</p> <p>○思ったことをすぐに口に出してしまう特性をもっている児童が多いため、思ったことを「言える人」と「言えない人」がいることを説明することで、登場人物の言動についての理解を補助する。</p>

<p>S : おばあさんが座れなくて大変だから。 S : 直接言わないとわからないから。</p> <p>○「女の人が立ち上がった時、わたしはどう思ったでしょうか。」 [共感的]</p> <p>S : おばあさんが座れて、よかった。 S : 若い人は、立って当然だ。 S : おばさんが言うてくれたからよかった。</p> <p>○「女の方は足が不自由だと分かったとき、周りの人はどう思ったでしょうか。」 [共感的]</p> <p>S : 女の人がかわいそう。 S : 知らない人だから、気にしない。 S : 見た目で健康な人だと決めつけていた。おばさんから言われてすごく嫌だっただろうな。</p> <p>◎「おばさんがしたことについて、みんなはどう思いますか。」 [批判的]</p> <p>S : 女の人のことを知らなかったので仕方ない。 S : おばあさんを座らせようと親切で言ったことなのでよいことだと思う。 S : みんなが言えなかったことを言ったのは勇気がある。 S : 女の人を見た目で判断して、障害はないと決めつけていたのはよくない。</p> <p>◇「誰にでも間違いはあるけれど、仕方がないことかな。傷つく人はいないかな。」</p> <p>S : 女の人にひどいことをしたと思うので謝った方がよい。</p> <p>3 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。(5分)</p> <p>○「思い込みや決めつけで行動しないためには、どのようにすればよいのでしょうか。」</p> <p>S : 見た目ですぐに判断しない。 S : どうしてそういうことをするのか、相手に理由を聞く。</p>	<p>○自分のイライラを解消するために発言したと考える児童には、「誰のため」と問い返えしたり、「どうして少しくつい言い方でいったのかな」と問い返したりして、おばさんの言動の裏にある心情を捉えるための補助をしていく。</p> <p>○女の人にも優先席の対象であったことを確認し、そのことに気が付いた時の後ろめたい心情について、多面的に考えさせるため、吹き出しのついたワークシートに書かせ、その内容について、教師が理由を問いながら児童の考えをつなぎ、交流させていく。</p> <p>○T2は、T1の発問を受けてワークシートへの記入状況を見取り、私の心情を捉えられるよう声掛けによる個別支援を行う。</p> <p>○実際に言動に移してしまったおばさんに視点を絞り、「批判的発問」を行い、自分事として自覚を高めながら価値理解を深め、誰に対しても、偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接する大切さを多角的に捉えられるようにする。</p> <p>○「～だから・・・だろう」という見方が「偏見」だということを教えたり、自分が見た目で判断されたらどう感じるかを考えさせたりすることで、見た目で判断してしまうことで生じる問題や相手を傷つけてしまう危険性について気付かせていく。</p> <p>○おばさんの言動に対して肯定的な考えをもっている児童に対しては、知らなかったで済ませてよいのか、知らない人と知っている人で区別してよいのかななどの「揺さぶり」の補助発問をして、偏見を受けた相手の気持ち想像させていく。</p>
<p>4 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。(5分)</p> <p><振り返り> S : 今まで、見た目や思い込みで、すぐに言ったりやったりしてしまうことがあった。人によっていろいろな理由があるかもしれないから、しっかり相手の人の言うことを聞いてから判断して行動したいです。</p>	<p>○自己の生き方につなげられるように、道徳的価値に対するこれまでの考えや、偏見について新たに考えたこと、気付いたことを言わせる。</p>

<p>◆評価の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言やワークシートの記述から、「偏見をもつことなく接することの大切さや難しさなどを多面的・多角的に考えている」姿を見取る。 ・発言やワークシートの記述から、「自分の生活に関わる偏見を見直し、思い込みや決めつけで行動しないために自分ができることについて考えている」姿を見取る。
